

1. 活動先

特定非営利活動法人 「もやい」

2. 活動先紹介

もやいは、阿久比町にある農家を改装して作った事務所で、個性豊かで明るく元気なスタッフさんによって運営されているアットホームな NPO である。

助け合いの輪を広げ、やがて迎える老いを豊かなものにし、誰もが安心して子どもを生み育てられる地域づくりを目指し、必要なときに必要な支援を心掛けている。地域の安全装置でありつづけること、存続を未来への贈り物とすること、地域の寄り合い所であることをモットーとして、地域の方々の暮らしの小さなお手伝いをし続けていくことを理念とし、活動している。

ここでもやいの事業内容について紹介する。

介護保険事業

介護保険が適用する方を対象とした、身体介護、生活援助を行っている。

障害者福祉サービス事業

障害者を対象とした身体介護、家事援助、通院介助などを行っている。

移送支援事業

病院の送り迎えなどの有償運送を行っている。

ミニデイサービス

介護保険を利用しない、誰でも利用できるデイサービスで、昼食・昼寝・おしゃべり・ゲームなど、寄り合い所としての事業を行っている。

子育て支援事業

産前産後の家事援助、保育園の送り迎えなどを行っている。

在宅支援事業

掃除、食事作り、簡単な身体介助などを行っている。

研修・啓発・相談活動

研修生の受け入れやボランティアの受け入れを行っている。

地域交流活動

ふれあい講座として絵手紙やガーゼ染めを教えたり、昼食会を開いたりしている。

その他にも高齢者による子育て・親育て事業として牛小屋を改装した「もーちゃんハウス」でお菓子作りやものづくりの体験講座を行っている。

3. SL活動プログラム

私たちが行ってきた主な活動を5つ紹介する。

夜空を見上げる会

昼に流しそうめんの手伝いやかき氷作り、ヨーヨー釣りなどを企画し、夕方にはもやいのスタッフさんやヘルパーさんたちとバーベキューをした。また夜には、半田の空の科学館のふくろうの会の方にボランティアを依頼し、大きな望遠鏡を持ってきていただいて、天体観測をした。参加者のみなさんが目を輝かせて説明を聞いている姿が印象に残った。雲が多くてあまり見えなかったが、参加者してくださった方々の楽しそうな姿が見られてうれしかった。

訪問介護

ヘルパーさんに同行して、訪問介護の現場を見せていただいた。利用者さんとお話をしたり、少しだけだが実際に介助のお手伝いもさせていただいたりした。介護がいかに大変なものかということ、身をもって体験してきた。

ミニデイサービス

もやいの特色の一つである誰でも利用できるデイサービスで、昼食作りを手伝ったり、利用者さんと一緒に体操をしたり歌を歌ったりした。みんなでご飯を食べたり話をしたりと、利用者さんがもやいで過ごす時間を楽しんでいるように感じた。

子育て・親育て事業

もやいのヘルパーさんや地域の高齢者の方を講師としたマジック教室やケーキ作りなどのお手伝いをした。子どもからお年寄りまでさまざまな世代の人が参加していて、遊びは全世代共通であることを学んだ。

ガーゼ染め

輪ゴムで縛ったり割り箸に挟んだりしたガーゼを、染料につけて干して色止めをしてという作業を体験させていただいた。出来上がりを想像しながらガーゼを縛っても、実際に染めてみたら全く違う柄になっていて、予想外の出来上がりに面白さを感じた。また、もやいではこのガーゼを商品にして売っているという話を聞いて、1つの製品を作るためにはさまざまな過程が必要だということも学んだ。

またこの他にも、防災教室のお手伝いや、通院介助などもやいで行っているさまざまな事業に携わらせていただいた。

4. 活動のふりかえり

感じたこと、気付いたこと

まず、自分たちの計画内容の薄さに気がついた。夜空を見上げる会の日のかき氷やバーベキューなど、自分たちで考えた企画をやらせていただいたが、準備や練習がしっかりできておらずスタッフの方々に迷惑をかけてしまった点がいくつかあった。段取りを固めておかないと色んな人に迷惑がかかるし、計画を具体的にしておけば誰もが動きやすくなるということがわかった。

また、周りを見ることの大切さに気付いたとともに、自分にできることを考え行動することの難しさを感じた。活動の中で時間が空いたときに、何をしたらよいかわからずスタッフさんの後について行ったり、スタッフさんの事務作業を見ていたり、何もしていない時間が出来てしまった。スタッフさんが次々にやることを見つけて作業しているのを見て、周りに注意を向けて行動していくことの大切さに気付いた。

6日間の活動を通して、現場で支援している方のあつい思いに触れて感じることできた気持ち、コミュニケーションを取る中で伝わらなくて悔しかった気持ち、支援現場を見て何もできない自分へのもどかしい気持ちを実際に現場で活動することによって感じることもできた。

学んだこと

ミニデイサービスなどの事業だけを行っているとしても赤字になってしまうため、ガーゼ染めなどの体験講座を開いて出来上がったものを商品にして活動資金の一部を集めているという話を聞いて、活動の一つ一つがすべて NPO の運営に繋がっているということ学んだ。

また、高齢者による子育て親育て事業の体験講座で子どもと接したときに、子どもが大人にお礼を言えない、話が聞けないという状況を目にした。そして、親が子どもを預けるときに親から一言も挨拶がないという話を聞いた。こういったことから、子どもの教育には親の教育も必要で、地域が子どもや親たちに働きかけていくことの必要性を学んだ。

そして、活動の中で利用者さんと接する機会がたくさんあったにもかかわらず、利用者さんがどのような人なのか、どんな問題を抱えておられるのかがしっかりとわかっておらず、どのように接したらよいかわからない場面がたくさんあった。利用者さんと信頼関係を築いていくには、利用者さんのことを知る必要があり、そのための知識や一人一人とじっくり関わっていく気力、相手の気持ちを考え思いやることのできないと、誰かを支援する活動は成り立たないということ学んだ。

深めていきたいこと

活動の中で、いつも決まった子どもたちが利用しているということに気づき、NPOはいったいどれくらい地域で浸透しているのか疑問に思った。また、子どもや親への教育を地域が何らかの形で働きかけていくことの必要性を学んだ上で、子どもたちやその親に私たちの言葉はどうすれば伝わるのかということや、利用者の方々と接する中で大切にしていかなければならない点など、深めていきたいことを見つけることが出来た。地域と密着する中で、一人一人の利用者さんと接するときに、いつまでも思いやりの気持ちを持ち続けるためにこれからも学びながら深めていきたいと感じた。

5. おわりに

活動を通して、座って講義を聞いているだけでは学ぶことのできないことを実際に目で見て学ぶことができました。もやいのスタッフの皆様や私たちの活動に携わってくださった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。